

第1学年 図画工作科学学習指導案

場 所	1年2組教室
児 童	1年2組 27名
指導者	奥山 陽子

1 題材名 「ちぎったかみが だいへんしん！」(絵に表す)

2 題材のねらい

本題材は、学習指導要領第1学年および第2学年の内容「A表現(2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する」の「ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。」「イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。」に関わる題材である。

低学年の児童は、材料に体全体で関わって楽しんだり、何かに見立てて遊んだりする。そこには、進んで材料などに働きかけ、そこで見付けたことや感じたことをもとに思考や判断をして、自分の思いの実現を図ろうとする姿がある。また、周りの友達と話をしながら、表現の発想を広げ、つくっているものを変化させたりする姿もある。

そこで、本題材では、表現材料に関わりながら、形を変化させたり、形の組み合わせを試したりすることで、発想を広げて自分の表したいものを見付けたり、友達の表現のよさや面白さを感じ取り、その価値を自分の表現に生かしたりするなど、試しながら自分の思いを広げ、自分なりに工夫して表現する姿を目指す。

3 題材の指導構想

(1) 児童について

児童は、材料に自ら関わり、思いのままに表現することを楽しんでいる。どの児童も自分の思いを作品に表したいという思いをもって活動に取り組んでおり、自分の表したものを教師や友達に伝えたいという思いももっている。しかし、自分の思いをどのように表現していけばよいのか迷う児童や、自信をもって表現することができない児童もいる。また、自分の表現と比べながら友達の表現を見て、その違いをよさとして受け入れたり、自分や友達の表現から価値を見出したりするという経験は少なく、教師の支援が必要である。

これまでの学習を通して、「すきなものいっぱい」では、自分のすきなものを、色や形の表し方に自分なりのこだわりをもちながら絵に表すことができた。「みてみて、いっぱいつくったよ」では、粘土の感触を楽しみながら思いを広げ、自分のつくりたいものをたくさんつくることができた。また、友達の表現にも目を向けて、形を変える方法をいろいろ試しながらつくる楽しさを感じることができた。「チョッキンパツでかざろう」では、できる形をイメージしながら、折り紙の折り方や切り方を試しながら表現することができた。これらの学習を通して、材料の形や色に目を向けて表現を楽しんだり、友達との交流から表現のよさを学び、自分の表現に生かしていくことのよさを少しずつ実感したりすることができるようになってきている。

(2) 題材について

本題材は、紙をちぎることでその形を変え、偶然できた形から思い付いたものや想像したものを自分らしく表現して楽しむ題材である。紙をちぎることでできる形をじっくりと眺めて、何に見えてくるかを考えながらイメージを膨らませたり、できた形を組み合わせさらに発想を広げたりしながら、表したいものを見付けていく。その中で、友達と作品を見せ合いながらお互いの表現のよさを交流することを楽しむことができる。また、材料の形の組み合わせ方や配色などに

ついて、自分なりに意図をもち、自分らしい表し方を工夫していくことをねらいとしている。

(3) 指導にあたって

材料との関わりを通して発想を広げ、試行錯誤しながら自分の表したいイメージを形に表し、自分なりの表し方で表現できるようにしていきたい。また、友達の表現のよさにも目を向けることで表現がより豊かになるよう、交流できる場も設定していきたいと考える。

そこで、学習構想の「ためす」段階では、材料である紙を提示し、実際に紙をちぎる活動を十分に行うことで、ちぎる感触を味わったり、ちぎった形に目を向けて偶然できた形を見立てて楽しんだりすることができるようにする。そして、「何に見えるか」を交流することで、紙をちぎった形をもとにして何かを表現できる面白さに気付くことができるようにする。その後、偶然できた形の特徴を考えながら紙をちぎる活動を楽しみ、自分の表現と向き合う時間を確保したい。できた形の向きをいろいろと変えながらじっくりと見ることを促し、初めにもったイメージとは異なる見え方に気付くことができるようにする。また、できた形を視点として、友達と交流する場を設定することで、自分とは違った見方や感じ方と出会い、イメージが広がっていくことも楽しめるようにしたい。友達との交流から、自分の表現のよさに気付き、表したいものへの思いをもつことができるようにしていきたい。

「ふかめる」段階では、「ためす」段階でできた形の中から、気に入ったものを選び、台紙となる画用紙に置いてみる。画面のどこに貼ると面白い表現になるかを、表したい場面の様子を思い浮かべながら構想することができるように、台紙となる画用紙の上でちぎった形を動かしてみるよう促す。また、表したい場面の様子を交流する場を設定することで、自分の表現のよさに気付いたり、友達の表現と比べて、見つけたよさを自分の表現に取り入れたりできるようにする。ちぎった形を貼った後、周りの様子や背景をクレヨンなどを使って表すことで、表したい思いを自分らしく表現できるようにしたい。

「ひろげる」段階では、作品の鑑賞を通して、自分や友達の作品の表現のよさや面白さを感じ取ることができるように、自分の表した場面の様子を語りながら友達に作品を見せ、自分なりに工夫したところを話したり、友達の表現のよさを伝え合ったりする場を設定する。また、学習プリントにより、うまくできたことや楽しかったこと、友達のよいところなどを観点として評価することで、表現に結び付いた造形的価値を実感できるようにする。

4 題材の目標と評価規準

(1) 目標

- 紙をちぎる活動や、ちぎった紙の形の面白さに興味をもち、表現する活動を楽しもうとする。
【関心・意欲・態度】
- 紙をちぎったときに偶然できる形から発想を広げ、形や色の組み合わせを試しながら、表したいものを考える。
【発想・構想の能力】
- ちぎった紙の形から思いついたイメージに合わせて、形や色の組み合わせ方を工夫して表す。
【創造的な技能】
- 作品を見合いながら、形からイメージを広げて表したもののよさや面白さに気付き、感じたことを伝え合う。
【鑑賞の能力】

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
紙をちぎって思いのままに表すことを楽しみながら、自分なりのイメージに合った作品をつくらうとしている。	紙をちぎってできた形から自分の表したい感じを見付けたり、形の組み合わせを試しながら発想を広げ、面白い形を考えたりしている。	ちぎってできた形の組み合わせ方をいろいろと試し、自分の表したいイメージに近づくように、形の向きや組み合わせ方を工夫して表している。	友達の話聞きながら、表し方のよさや面白さに気付いたり、自分の作品との違いを感じ取ったりしながら、感じたことを伝え合っている。

(3) 指導と評価の計画 (全4時間 本時は「ためす」段階の1時間目)

段階	ねらい	主な学習活動・内容	材料・用具	評価規準 (評価方法)
ためす 本時	<第1次> (45分) イメージをもったり、つくりたいものの思いを膨らませたりしながら、活動への見通しと意欲をもつ。	○活動への見通しをもつ。 ・作例を見て話し合うことでイメージをもつ。 ・紙をちぎってできた形を見立てて楽しむ。 ・できた形をもとに、友達と交流し、発想を広げ、表したいものへの思いをもつ。	・紙 ・画用紙	【関】 ちぎった紙の形の面白さを感じながら、イメージを広げていくことに興味をもち、活動を楽しんでいる。 (観察・対話) 【発】 ちぎった形やその組み合わせなどから発想を広げ、表したいものを考えている。 (観察・対話・製作過程)
ふかめる	<第2次> (90分) 思いついたことを試しながらつくりたいもののイメージをもち、自分なりの表現を追究する。	○形を台紙に貼り、背景をかき加える。 ・気に入った形や組み合わせた形などから、思いついたイメージを形に表す。 ・背景を描き加え、表したい様子がわかるように工夫しながら表現する。	・紙 ・のり ・画用紙 ・クレヨン	【創】 自分の意図やイメージに合わせて、形の組み合わせ方や背景を工夫して表している。 (観察・対話・作品)
ひろげる	<第3次> (45分) 自他の表現のよさや面白さを振り返り、活動を通してできたことを自覚する。	○鑑賞する。 ・お互いの作品を見合いながら、表現のよさや面白さを見つけ、伝え合う。	・学習カード	【鑑】 表現の意図を話したり、友達の思いを聞いたりしながら、自他の表現のよさや面白さをとらえている。 (観察・カード)

5 本時の指導

(1) 目標

ちぎった紙の形や、その組み合わせから見えてくる形に興味をもち、さまざまな見方を試しながら発想を広げ、表したいものを見付けようとする。

(1) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童の支援
① 紙をちぎって偶然にできる形の面白さに興味をもち、さまざまな見方を試しながら、イメージを広げる活動を楽しんでいる。 【関心・意欲・態度】	① 形からイメージできない児童には、一緒に紙をちぎりながら見えてくる形について具体的に対話することで、形の面白さに気付くことができるようにし、楽しんで活動できるようにする。
② 紙のちぎり方やできた形の組み合わせを試しながら、自分がつくりたいもののイメージを膨らませ、表したいものを見付けている。 【発想・構想】	② ちぎった紙の形から見えてくるものについて対話をし、児童の感じたことや考えたことを引き出しながら価値付けたり、友達と形についての交流を図れるように支援したりすることで、表したいもののイメージをもつことができるようにする。

(1) 展開

過程	学習内容と活動	指導上の留意点（評価）	備考
つかむ	<p>1 題材に出会い、本時の活動への意欲と表現への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現材料と出会い、紙をちぎる活動を楽しむ。 <p>・ちぎってできた形を見て、気付いたことを交流する。</p> <p>〈交流の視点〉 ちぎってできた紙の形が、何に見えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな形をつくることができるように、紙を細かくいろいろな方向にちぎることを確認する。 何種類かの紙を用意し、材質による感触の違いを味わいながら、紙をちぎる活動を楽しめるようにする。 ちぎってできた紙を何かに見立てて楽しんでいる児童を取り上げ、表現への興味、関心へとつなげる。 ちぎってできた形を見ながら交流することで、紙がいろいろな形に変化していくことを楽しめるようにする。 逆さにしたり、裏返したりと、さまざまな見方をするすることで、さらにイメージが広がる面白さを感じるようにする。 ちぎった形をいくつか提示することで、形を組み合わせると、より面白い表現になることに気付くことができるようにする。 	・紙
10分	<p>〈「事象」とのつながり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙をちぎったときの形の面白さに気付くことができるように、材料との出会いの場面で、材料体験の時間を設定する。 「ちぎった形」を視点として見合う場面を構成し、感じたことやイメージしたことを交流できるようにする。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>本時の活動への意欲を高め、活動の見通しをもつことができるようにする。</p>		

	<p>2 学習内容を知り，課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ちぎったかみから，どんなかたちがみえてくるかな。</div>	<p>・紙をちぎったときに見えてくる形をもとにして，つくりたいもののイメージを広げていくという活動に見通しをもち，活動への意欲をもてるようにする。</p>	
あ ら わ す	<p>3 表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちぎった形をさまざまな方向から見たり，組み合わせたりすることを試しながら，さらに発想を広げていく。 ・形から思いついたものを友達と交流しながら，見え方の違いの面白さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちぎってできた形をいろいろな方向から眺めることで，見えてくる形が違ってくることの面白さを楽しんでいる児童を称賛し，自分の作品とじっくりと向き合うことができるようにする。 ・友達と交流することで，自分とは異なる見え方に気付き，さらに発想を広げている児童を紹介することで，交流を促す。 <p>◇①【関心・意欲・態度】（観察・対話）</p>	
2 3 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>〈「友達」とのつながり〉</p> <p>「ちぎった形」を視点として，発想の面白さについて気付いたことを交流できるよう，教師が児童のつなぎ役となり交流を促したり，表現のよさを価値付けたりする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達と造形的な価値を共有することで，自分の表現に自信をもって活動できるようにする。また，造形的な価値を自分の表現にも取り入れることで発想が広がり，自分の表現への思いが深まるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙の上にちぎった形を置いてみることで，自分の表したいイメージを形にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を用意し，その上にちぎった形を並べてみることで，表したい場面のイメージを具体的にもつことができるようにする。 <p>◇②【発想・構想】（観察・対話）</p>	・画用紙
ひ ろ げ る	<p>4 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試してみてもうまくできたことや楽しかったこと，次時に試してみたいことを観点として振り返りをする。 ・次時の活動への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の振り返りを通して，活動のよさに気付き，次に表したいことが具体的に見えてくるよう，交流する場を設定する。 ・自分や友達の表現の違いやよさに気付くことができるよう，できた形を見せ合いながら話を促す。 	
7 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>〈「未来」とのつながり〉</p> <p>振り返りの観点を示し，観点に沿って活動を振り返ることができるようにする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>本時の活動の成果を実感し，次の活動への見通しをもつことができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な見方や組み合わせ方をすることで，面白い表現へとになっているものを教師が取り上げ，造形的価値を全体に広める。 		